

# 「第3次相模原市観光振興計画（案）」に関する パブリックコメント手続の実施結果について

## 1 概要

現計画である「新相模原市観光振興計画」の計画期間が、令和元年度末をもって終了することに伴い、本市では、これまで取り組んできた施策、事業を検証し、必要な見直しを行うとともに、本市を取り巻く環境の変化や増加する日本におけるインバウンド需要などを踏まえ、今後の観光振興の方向性を明確にし、施策を計画的に推進するため、「第3次相模原市観光振興計画」を策定します。

同計画の策定に当たり、市民の皆様からご意見を募集したところ、6人の方から22件のご意見をいただきました。

この度、いただいたご意見の内容、及びそれに対する市の考え方をまとめましたので、次のとおり公表します。

なお、いただいたご意見を踏まえ、同計画案を一部修正するとともに、策定に生かしてまいります。

## 2 意見募集の概要

- ・ 募集期間 令和元年12月5日（木）～令和2年1月14日（火）
- ・ 募集方法 直接持参、郵送、ファクス、電子メール
- ・ 周知方法 市ホームページ、商業観光課、各行政資料コーナー、各まちづくりセンター（城山・橋本・本庁地域・大野南まちづくりセンターを除く）、各出張所、各公民館（沢井公民館を除く）、各図書館、市立公文書館、広報さがみはら

## 3 結果

### （1）意見の提出方法

意見数		6人（22）件
内 訳	直接持参	1人（2）件
	郵送	0人（0）件
	ファクス	2人（17）件
	電子メール	3人（3）件

### （2）意見に対する本市の考え方の区分

- ア：計画案等に意見を反映するもの
- イ：意見の趣旨を踏まえて取組を推進するもの
- ウ：今後の参考とするもの
- エ：その他（今回の意見募集の趣旨・範囲と異なる意見など）

(3) 件数と本市の考え方の区分

項目	件数	市の考え方の区分			
		ア	イ	ウ	エ
「本市の観光の現状」に関するもの	3件	3件			
「基本方針における現状と課題」に関するもの	3件		3件		
「基本施策」に関するもの	9件		7件	2件	
「各エリアにおける基本方針」に関するもの	7件	1件	3件	3件	
合計	22件	4件	13件	5件	

(4) 意見の内容及びご意見に対する本市の考え方

通番	意見の趣旨	市の考え方	区分
本市の観光の現状に関するもの			
1	第3章「本市の観光の現状」の「公園・テーマパーク等」の説明欄にある「県立津久井城址公園」は、正しくは、「県立津久井湖城山公園」ではないか。	ご指摘のとおり、「県立津久井湖城山公園」に修正します。	ア
2	第3章「本市の観光の現状」の「温泉等」の説明欄について、「山間部に複数の温泉」との表現になっているが、山間部に限定できないのではないか。	ご指摘を踏まえ、「山間部に複数の温泉」を「山間部を中心に複数の温泉」に修正します。	ア
3	第3章「本市の観光の現状」の「祭り・イベント」の説明欄に「年間を通じてイベントや行事が行われている。」とあるが、「年間を通して多種多様なイベントや行事が行われている。」としてはどうか。	ご指摘を踏まえ、「年間を通じてイベントや行事が行われている。」を「年間を通して多種多様なイベントや行事が行われている。」に修正します。	ア

基本方針における現状と課題に関すること			
4	基本方針3「観光客の受入環境整備の推進」の現状に、「戦略的な取り組みが不足している」を記載。合わせて、課題に「戦略的な取り組み及びそれらの計画的な整備」を記載。	第4章の観光振興に取り組む背景と目的を踏まえ、施設整備につきましても、計画的に進めてまいります。	イ
5	基本方針4「効果的な情報発信」の現状に、「アンテナショップ sagamix の認知度が低い」を記載。合わせて、課題に「アンテナショップ sagamix の認知度の向上策」を記載。	アンテナショップ sagamix につきましては、開設当初における平成25年度の約8万人の利用者数に対し、平成30年度では約15万人と倍増しており、一定の認知度向上が図られてきたものと考えております。 今後も更なる認知度向上に向け、引き続き取り組んでまいります。	イ
6	基本方針5「広域的な連携の推進」の現状に、「年間260万人の登山客を誇る高尾山から城山湖及び関東ふれあいの道方面への登山道の整備が進んでいない。（東高尾山稜コース）」を記載。合わせて、課題に「京王高尾山口から城山湖及び関東ふれあいの道方面への登山道の整備等について八王子市、町田市との連携が必要である。（東高尾山稜コース）」を記載。	基本方針5「広域的な連携の推進」につきましては、主にプロモーション等のソフト的な取組における連携を想定していますが、今後、本計画の取組を進める中で、高尾山から城山湖方面への登山道の整備等について、検討してまいりたいと考えております。	イ
基本施策に関するもの			
7	人材育成は重要で、そのための研修機会の提供もよいことだが、地域ごとの多様な取り組みを推進、促進するためには、座学の1～2回程度の研修では、役にたつものになるかどうか不安がある。育成・養成する人材の「レベル目標」を明確にし、それに必要な研修プログラムを計画的に実施するような取り組みとすべきである。	地域の観光振興をけん引する人材の育成を目指し、人材育成支援の強化に、計画的に取り組んでまいりたいと考えております。	イ

8	<p>基本方針3「観光客の受け入れ環境整備の推進」の施策3-1 長期的視点に立った観光施設の整備・維持管理について、現計画にあるものや優先度の高い施設については、早急に対応すべきと考える。(整備主体は様々だが、検討例として記述すべき)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小原宿本陣の改修整備(実施計画に位置付けされるも未実施)</li> <li>○小原の郷の有効活用</li> <li>○津久井湖観光センターの売店及びトイレの改修整備</li> <li>○城山湖コミュニティ広場のトイレの改修整備</li> <li>○城山湖散策路の松見平休憩所などの改修整備</li> </ul>	<p>施設の整備・改修等につきましては、計画的な整備が推進できるよう検討してまいります。</p>	イ
9	<p>市財政が厳しい折、箱物的な施設の整備等は容易ではないと考える。それを補う方法として、民間商業施設や公共施設の空きスペース、場合によっては空き家民家まで含めたものを「観光施設化」していくことも考えていくべきで、その促進となるような仕組み(補助制度、宅建業者、建築内装業者、観光アドバイザーの派遣などの支援制度)も考えていくべき</p>	<p>観光客の受入環境整備の推進に当たりましては、民間事業者や関係団体等と連携しながら計画的に事業を推進できるよう必要な体制を構築したいと考えております。</p>	イ
10	<p>情報発信は重要で様々な発信手段を実施していくべきだが、市民・地域住民団体を含めた民間からの情報発信を充実していくために、上記の人材育成にもつながるが、人に見てもらえるための「見せ方」「載せるべき内容」を細かくレクチャーしてくれるような仕組みが必要ではないか。発信する情報の質・内容の充実なくして効果的な情報発信にはならず、それを支える行政側の仕組みが必要。</p>	<p>今後、本計画の取組を進める中で、市民・地域住民団体を含めた民間による情報発信における、効果的な支援策について、検討してまいります。</p>	イ

1 1	<p>隣接する八王子市、町田市との連携が特に必要であることから、基本方針5「広域的な連携の推進」施策5-1「広域連携による観光振興」の検討例に次のものを記載。</p> <p>○京王高尾山口から城山湖散策路間（東高尾山稜コース）の登山道の整備充実</p>	<p>基本方針5「広域的な連携の推進」につきましては、主にプロモーション等のソフト的な取組における連携を想定していますが、今後、本計画の取組を進める中で、高尾山から城山湖方面への登山道の整備等について、検討してまいりたいと考えております。</p>	イ
1 2	<p>相模原市の観光資源と言えるものは特に旧市域において乏しく、MICEなどを含む都市型の資源については、そもそも近隣他市町との競争が激しい事を念頭に置く必要がある。</p> <p>例えば相模原と横浜、川崎等を含む周辺地域を比較して同等の施設と条件が提示された場合、敢えて相模原を選ぶ理由は大半の催行主にとって特にない。民間には相模原市以外の選択肢が当然かつ無数に存在し、一旦選んでもいつでも相模原市から出て行く決断が出来ること、集客以前にイベントそのものを呼び込めるかどうか、会議や展示会などの催事を誘致出来るかは楽観出来るものではなく、それらに希望的観測を持って安易に投資の判断を下すべきではないように考える。</p>	<p>MICE誘致・開催支援による観光振興に当たりましては、事業者ニーズ等を含め本市の実情に沿った形での開催支援体制の構築や支援組織の整備、民間施設等との協力体制の構築に取り組んでまいりたいと考えております。</p>	ウ
1 3	<p>趣味に関連する利便を整備する方向で集客を図るのはどうか。一例を挙げると圏央道の開通後に国道129号近辺にラジコンを主体とした模型店が進出、屋内サーキットを整備しており、休日の駐車場に近隣のみならず遠方ナンバーでの来訪も散見される。</p> <p>また、かつてプレジャーフォレストにジムカーナ場やサバイバルゲームフィールドなどが用意されていたが、特にジムカーナ場はそれが神奈川県内唯一の公認コースであり、閉場が惜</p>	<p>ご意見にありました「相模原に遊びに来るリピーター」をつくることは、本計画を推進するにあたり必要な視点であると考えます。</p> <p>観光客のニーズが多様化する中では、既存の価値観にとらわれず新たな資源の発掘と適切な情報発信等について、取り組む必要があると考えております。</p>	イ

	<p>しまれる声は相応にあった。「自分の遊びに通える場を用意する」という発想において、やれる場所が少なく困っているという声を探し出して場を提供し、その趣味コミュニティに対してアプローチしていく。これらは観光というにはささやかながら、こうして毎週末相模原に通って趣味を満喫できる環境作りを推進することで「相模原に遊びに来るリピーター」を作っていく方向で参考にする価値はあるのではないか。</p> <p>菅平高原や茨城県鹿行地域などで見られるスポーツ用の芝面・施設整備を津久井地域の遊休農地を利用して展開するなどして合宿やスポーツ練習に寄与する環境を整備し、各種競技団体の誘致に注力するなどはどうか。夏期や冬期の環境は参考地域ほど良好とはいいかねるものの、圏央道を利用すれば二時間以内に到達できる地域は西関東のかなり広い範囲に及び、週末に菅平や神栖に通うことは難しくとも津久井であれば日帰り、あるいは休前日夕方以降などでも相応の時間確保は可能ではないか。</p>		
14	<p>オリンピックレガシーとして、新たな自転車競技の誘致が検討されているようだが、それらを起爆剤として多くのサイクルリスト、自転車ファンに来てもらえるようにするとともに、その方々が地域に「お金」を落とすようになって初めて地域活性化が実る。スポーツ振興ならば、この程度の記述でもよいが、観光振興ならば、「～を活用した観光振興に取り組む」について、もっと経済的な果実を求めることがしっかり読み取れるような記載内容にすべきでは。</p>	<p>本計画の基本的な考え方として「国内外からの交流人口の増加に伴う、既存産業の発展や新たなビジネスチャンスの創出によって、地域経済の活性化の促進」を掲げております。この視点を前提としながら、地域活性化につながる観光振興の取組を進めてまいります。</p>	ウ

15	<p>私が勤務する藤野観光協会が推進している藤野里山体験ツアーは実施後5年目になりますが、着実に成果を上げています。これを津久井地域に広げていくことによって、里山体験ツアーを相模原市の観光振興の一つとし、あわせて津久井地域の活性化に結び付けていこうとする試みを市民協働事業として展開しています。ただし、市民協働事業には時間的な制限があり、その後の継続については何らかの形で市の協力が不可欠だと考えています。以上の経緯をふまえ、本計画に掲げる「魅力的な観光コンテンツづくり」、「地域主導型の推進体制づくり」、「各種ツーリズムの推進」の3つの事業実現のために津久井地域里山体験ツアーの運営を市の観光振興政策に具体的に位置づける必要があると考えます。</p>	<p>地域で取り組まれる体験型観光プログラムの提供は重要であることから、今後におきましても、地域資源を活用した体験型観光プログラムに取り組む団体との協働に取り組んでまいりたいと考えております。</p>	イ
「各エリアにおける基本方針」に関するもの			
16	<p>津久井湖城山エリアについて、「城山をシンボルとする」とあるが、色々な城山があるため、「津久井城址城山をシンボルとする」にすべき。</p>	<p>ご意見を踏まえ、「津久井城址である城山をシンボルとする」に修正します。</p>	ア
17	<p>津久井湖城山エリアの「津久井地域への観光交流の入口づくり」について、「津久井湖観光センターの機能検討や再整備（道の駅的な整備）」といった検討例を追加すべき。</p> <p>また、新たに「城山湖周辺の一体的整備」を追加。検討例として、「市街地に近接し、アクセス、コスパに優れていることから、城山湖コミュニティ広場のトイレ及び散策路の改修、金毘羅宮展望台の整備、京王高尾山口から散策路間（東高尾山稜コース）の登山道の整備充実を図る。」を追加。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、津久井湖城山エリアにおける観光施策を推進するにあたっての参考とさせていただきます。</p>	ウ

18	<p>リニアの車両施設については、現在、国内には山梨県の「県立リニア見学センター」と、名古屋市の「リニア・鉄道館～夢と思い出のミュージアム～」などがあります。「リニア見学センター」は、リニアの仕組みなどを周知する施設であり、「リニア・鉄道館～夢と思い出のミュージアム～」は、JR東海が在来新幹線やリニアについて紹介した施設であり、将来の「リニアの実現に向けた施設」であります。ほかにも、鉄道関連の博物館としては、さいたま市にあるJR東日本の鉄道博物館、通称「てっぱく」や近隣では日野市にある京王電鉄の「京王レーランド」、さらには2021年に海老名に開業予定の小田急電鉄「ロマンスカーミュージアム」などあり、多くの観光客が訪れるなど、話題をさらっている施設が沢山あります。宮ヶ瀬湖エリアには、関東車両基地が設置されることとなり、そうすると実用車両が配備されることとなります。リニアは大部分が地下を走行し、その全容を見られるのは、関東ではこの車両基地ぐらいしかありません。鉄道ファンにとっては、大変魅力ある施設となり、加えてリニア車両の点検作業などが見学できる施設となれば、子供たちがその仕組みを学習したり実際に体感できることとなり、社会学や遠足の拠点となることも考えられ、観光、教育の面からも大変重要な施設となります。現在、津久井地区及び近隣地区には、国内外からの観光客で溢れる「高尾山」や「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」、2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技の会場となる富士五湖に繋がる「道志みち」など、魅力ある施設や観光地が沢</p>	<p>本計画では、リニア車両基地の観光活用に向け、既存の観光施設・観光地と車両基地との地理的關係や観光コンテンツとしての相乗効果を踏まえながら、魅力的な周遊ルート等を検討してまいりたいと考えております。</p> <p>このため、車両基地の観光への活用の実現に向け、鉄道事業者をはじめとする関係機関等への働きかけを積極的に進めていきたいと考えております。</p>	イ
----	--	--	---



	<p>山あります。首都圏エリアのこの地に、リニア中央新幹線の「体感型リニアミュージアム」(仮称)が開館されれば、これが起爆剤となり、リニア中央新幹線の開通とともに、観光地としての地位が確立されることは間違いありません。こうしたことから、今回の「観光振興計画」に、同施設と既存観光資源との関係を明記して頂くとともに、地域の観光振興に向け、JR東海をはじめ、地元観光協会や民間事業者などへの働きかけを強く要望いたします。</p>		
19	<p>陣馬・高尾山エリア「歴史的資源を活用した観光振興」について、検討例として、「小原宿本陣の改修整備及び小原の郷の有効活用の推進」を追加。</p>	<p>本章は各エリアにおける基本方針を示したものであることから、具体的な施設の改修等について、示してはおりませんが、陣馬・高尾山エリアにおける歴史的資源を活用した観光振興にあたっては、「小原宿本陣の改修整備及び小原の郷の有効活用の推進」といった視点も必要と考えることから陣馬・高尾山エリアにおける観光施策の推進にあたっての参考とさせていただきます。</p>	ウ
20	<p>旧津久井町の住民としての立場から述べさせていただきます。</p> <p>相模原市の観光を考えた場合、都市型の観光という考えもできるが、ここでは自然環境あるいは農業をも活かした6次産業的観光という観点から述べます。</p> <p>国道413号線を橋本から山梨県境まで見渡してみても、コンビニエンスストアの立地という点にポイントを置いて考えてみます。橋本から津久井方面へ向かって進んで行くことに気づく。コンビニエンスストアはそのほとんどが津久井方面に向かって左側に設置されている。セブンイレ</p>	<p>国道413号沿いの青山周辺エリアには農用地区域もあり、現状では施設の設置等について、難しい面もございますが、オリンピックの自転車ロードレース競技の開催を契機とした、道志川エリア周辺への誘客は重要であることから、いただいたご意見につきましては、道志川エリアにおける観光施策を推進するにあたっての参考とさせていただきます。</p>	ウ

<p>       ブンは津久井の中野地区の国道右側にあった店舗を閉鎖して少し離れた国道左側に新店舗を設置したほどである。コンビニエンスストアを運営する会社は何を意図して左側に設置したのであろうか。これは相模原市中心部あるいは市外からの観光客が津久井や山梨方面へ行く場合、特に交通量の多い地域では左側にあるほうが利用しやすいという心理状態を考慮に入れているからではなかろうか。配送車の事故防止という観点からということもあるようだ。また、広大な駐車場が設置される傾向にある。国道413号線の青山から先はコンビニエンスストアも少なく青野原に一か所あるのみである。そういった背景をもとに広い青野原のバイパス沿いに農産物を利用した飲食施設を設置したらどうか。近くの農地を利用して農産物を生産、飲食施設で利用という生産から消費までの一貫性を確立する案である。飲食エリアから北方向に渡り廊下を作り、左右には数多く(数千株?)の花を植え、道志川沿いに川を見渡せるカフェエリアを設置する施設の案である。青野原にあるコンビニエンスストアの売り上げは土日に限れば県内トップクラスと聞く。オートキャンプを目的とした観光客、自転車を利用した観光客が近年増加しており、オリンピックのロードレースが行われた後はさらに増加すると考えられる。     </p> <p>       提案した施設は国道右側に設置する案であるが、その地域の交通量は右折が困難である地点ではないので問題ないと思われ、左側に駐車場を設置してもよい。旧津久井地区の観光への利用と発展への一考察として提案します。(加えますが、資金、白地青地、     </p>		
--	--	--

	土地所有者との問題等は考慮に入れてない)		
2 1	<p>道志川エリア キャンプ場などのアウトドアのメッカとしての魅力発信</p> <p>上記について、これまで以上に推進していくべきだが、道志川では、市カーヌー協会の練習会場・レース会場としての活用も始まっているとともに、SAP など新たな水上スポーツの展開も見られる。</p> <p>「ゆったりキャンプを楽しみたい～」方々への取り組みだけでなく、上記のスポーツ、レクリエーションを呼び水にした取り組みも必要で、自転車レース・サイクリングだけでなく、カーヌーなどのスポーツ種目等の活用、その発展を支援する仕組みなども観光振興の一部に組み込むべき。</p>	<p>スポーツツーリズムの推進にあたっては、本市の持つ資源やスポーツ関連施設の整備状況等を踏まえて、自転車のみではなく、観光コンテンツとしてポテンシャルが高いスポーツについても活用を図ってまいりたいと考えております。</p>	イ
2 2	<p>丹沢山塊エリアについて、近年自然災害による登山道の崩落やヤマビルによる吸血事案等により、登山者にとって環境が悪化しており、その対応が求められている。魅力だけでなく、負の面も記述する必要があるのではないか。</p>	<p>安全に登山を楽しめるよう、関係機関と連携しながら、必要な対策の検討や注意喚起を行ってまいります。</p>	イ